

# 石クリ通信

5月号

私の読書はマンガです。 看護師 太田 小百合

新型コロナウイルスの影響もあって、むやみな外出もできない今、私は「マンガ」をよく読みます。「マンガ！」と思う方もいらっしゃると思いますが、マンガの中には、誰もが不安を抱え、行き場のない怒りや悲しみに悶々として心が折れそうになる、そんな時を支えてくれる「ことば」を発してくれる作品もあります。例えば「頑張れ、頑張れ、オレは今までよくやってきた！俺はできる奴だ。そして今日も、これからも、折れていても、俺が挫けることは絶対にない。」

こんな言葉です。私はこの言葉で「今はつらいけど頑張ろう」と思うようになりました。こんな感じで、マンガの中には「折れない心をつくる教科書」のような作品もあります。ぜひそんな「マンガ」を皆さんもたま〜に読んでみてはどうでしょうか。

外出自粛中の今 事務 田所 弓佳

コロナウイルスが流行し外出自粛中でお出かけしたり友達と遊ぶのを控えている今。そんな友達と会えない日々の中で最近の楽しみはテレビ電話です。いつも会ってするたわいもない話をしたり画面越しに同じ動画を見たりし外出自粛中ならではの楽しみ方をして過ごしています。まだまだコロナウイルスは流行しているので三密を避け、うがい手洗い消毒などの予防をしっかりして過ごしていきたいと思えます。

車の中から 看護助手 柴田 さち子

今年は新型コロナウイルスの感染予防のため、さくらまつり、さくらロードレースなど、いろいろな行事が自粛され、今までにない花見です。毎年桜の花が咲き始めると、三分咲き、五分咲き、と毎日見ている、満開の桜を見た時は、最高の気分になりました。今年は毎日毎日コロナの騒ぎで、桜の花を見に行く気分になれず、車の中から眺めていま最高気分で見られますように！



コロナ 事務長 石川 都

いよいよ全国に新型コロナウイルスによる非常事態宣言が出された。日立市ではまだ感染者は少ないが、いつどこでクラスター現象が起きてもお不思議ではなく、市内のどこでも見えないウイルス相手の緊張が感じられる昨今である。テレビをつければ番組はコロナ一色で、専門家が各々自説を声高に述べているので、あまりそれらに煽られ不安に駆られることのないよう気をつけている。一人ひとりが三密（密閉・密集・密着）を避け、手洗いを励行する以外、あまりやらないのではない上、最低限の日用品や食材の買い物もせねばならないので、気をつけるにも限度があり、あとは運を天に任せるしかない。

クリニクの診療も続けているが、泌尿器科専門でX線も防護設備もない当院では「咳や発熱など風邪症状の方は専門機関へ・・・」という掲示を玄関に出し、受付や診察室に応急のプラスチック隔壁を作り、皆マスク着用で対応するしか、今のところできることはない。

先のことばは全くわからず不安も募るが、こういう時こそ「ネガティブ・ケイパビリティ」が必要になってくる。これは詩人キーツの言葉を、精神科医で作家の帚木蓬生が現代最も必要なこととして引用したもので、すぐには答えが出ず、今現在に対処しようのない不確実な事態に耐えうる能力のことである。つまり何が「できる」能力ではなく、先の見えない時でも結論を急がず、長い道のりを希望を持って「耐える」能力である。これが今ほど必要とされている時ではないかと思う。

WHOの進藤奈保子医師の、今のコロナは（一時的）異常態（アップノーマル）でなく、（今後共存してゆく）新常态（ニューノーマル）であるとの見解には、非常に納得するものがあった。

老若男女を問わず、こういう時にこそ「人」が出るし、こういう時にしか学べないこともある。この緊迫した状況の中でも、皆が各々の場でベストを尽くし、力を合わせてこの非常事態を何とか乗り越えたいと思う。

小さな幸せ見つけませんか？ 事務 森 多加子

皆さん、こんにちは。石川クリニックの一員となり早一ヶ月、段々と新しい環境にも慣れて毎日楽しく働かせていただいています。世間ではコロナウイルスの流行で大変な生活を強いられています。四月から大学生となり一人暮らしを始めるはずだった次男もコロナウイルスの影響で九月までお預けとなり、母としてはちょっぴり嬉しいような：複雑な気持ちです。皆さんも予想外の出来事に戸惑うことがたくさんあると思いますが、日常の中の小さな幸せや楽しい出来事を支えにコロナを乗り越えて行きましょう。

こんな時こそ 看護師 澤田 彰子

コロナの勢いが止まりませんね。茨城県でも非常事態宣言が発令されました。外出自粛の日々が2ヶ月も経ち職場と家の往復だけで気が滅入ってきます。そんな時、玄関先のサクラ草が「ガンバレー」と言わんばかりに満開に咲いていました。気分が滅入る時だからこそ花々を観る心の余裕をもちたいと思います。



新型コロナウイルスの緊急事態 院長 石川 悟

政府による緊急事態宣言が発出されました。国民一般に対して発令するならば、緊急事態というより非常事態と考えた方がいい、と最初から思っていました。ご存知のように感染力が強く、かかっても有効な治療はないので、ひたすら感染しないように人と接近しないで、頻回に手洗いをすることが、一般人のやることで、それは非日常であっても特に緊急性はありません。事態を誤って急いで対処しなければ・・・とパニックになると、トイレレットペーパーなどの買い占めが起きます。

コロナ肺炎を治療する病院や医療スタッフ、そして政治家にとつて、今は文字通り「緊急事態」。診療や看護の人材の確保、医療資材の調達などを、緊急に対処しなければなりません。医療崩壊をきたすことのないように、政治的な施策は緊急を要します。また経済活動の低迷にもなう対策も急を要します。いろいろな部署のすり合わせも必須です。

外出しないで、家で過ごしてください、私も犬を抱っこして、くつろいでいます、というメッセージをわざわざ出す国のトップは、緊急事態における自分の役割と責任がまったくわかっていないとしか言わざるをえません。

誕生 通信・ウェブ担当 石川 香

世間も石クリ通信もコロナ一色ですが、うちでは4月2日に長男誕生という嬉しい出来事がありました。肺に羊水が溜まり、ろくに顔も見えないうちにこども病院に入院になってしまい、心配しましたが、母と同日に無事退院。家族が揃うことができました。上の娘もすっかりお姉ちゃんです。

